

(様式8)

公共事業終了箇所評価調書

評価確定日(平成20年 9月30日)

事業コード	H20 - 建 - 終 - 8		区 分	国庫補助	県単独
事業名	港湾環境整備事業		部 局 課 室 名	建設交通部 港湾空港課	
事業種別	港湾環境		班 名	港湾班 (tel)018-860-2545	
路線名等	船川港		担 当 課 長 名	山内 啓一	
箇所名	男鹿市金川地区		担 当 者 名	主幹(兼)班長 土谷 諄一	
総合計画との 関連	政策コード	K	政 策 名	水と緑豊かな自然環境と人との共生	
	施策コード	3	施 策 名	自然とふれあう多彩な活動の推進	
	指標コード	2	施策目標(指標)名	親水空間整備率	

1. 事業の概要

事業の 背景及び 目的	船川港金川緑地は海洋性レクリエーション需要の増大に対応し、マリーナを核とした機能の充実を図る海洋性レクリエーションゾーンとして位置付けられている。当該緑地は男鹿マリーナと隣接したシンボル緑地として、海洋性レクリエーション機会及びそれらの余暇人口に対する空間の提供のため緑地施設を整備している。						
事業期間	前回(H15年)	H1年 ~ H18年	総事業費	前回(H15年)	27.9億円	国庫補助率	5/10
	終了	H1年 ~ H17年		終了	26.9億円		
事業規模	前回(H12年)	全体面積 A=12.5ha		前回(H12年)	全体面積 A=12.5ha		
	終了	全体面積 A=12.5ha		終了	全体面積 A=12.5ha		
事業効果の 要因変化及び 発現状況			前回評価計画	最終	増減	-	理由
	事業費		2,790,000	2,690,700	-99,300		
	経内 費 用 内 訳	工事	1,827,900	1,728,600	-99,300		
		用補	962,100	962,100	0		
		その他	0	0	0		
	事業内容		トイレ2棟、ハンフ36基、フィルター2基、植栽1式、駐車場1式	トイレ2棟、ハンフ36基、フィルター2基、植栽1式、駐車場1式			駐車場及び広場の配置、面積を見直したことにより削減。
	コスト・効果対比較		費用便益変化の主な要因(前回評価 終了)				
	最終コスト		終了C / 前回評価C = ( 0.96 )	【便益】 特になし。			
	費用便益		前回評価B / C = ( 1.9 )	【費用】 駐車場及び広場の配置、面積を見直したことにより削減。			
	終了B / C = ( 1.7 )						
目標 達成率	指標名	親水空間整備率					
	指標式	親水空間整備率 = 実施箇所 / 計画箇所					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無		有 無	
	目標値a	57%(H19計画)		データ等の出典		港湾空港課調べ	
	実績値b	66%(H19実施)					
	達成率b/a	116 %		把握の時期		平成20年10月	
	指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法 指標を設定することができなかった理由及び把握方法と成果 データの出典含む						
自然環境の 変化	特になし。						
社会経済 情勢の変化	平成7年度に男鹿マリーナが供用開始。平成9年度には昭和男鹿半島ICまで秋田自動車道が開通。平成17年3月22日に男鹿市と旧若美町が合併して男鹿市となった。平成19年に臨港道路生鼻崎線が一部区間を除いて4車線化供用、国体開催。						
事業終了後の 問題点及び管理・ 利用状況	平成19年秋田わか杉大会のラグビー競技場として利用されたほか、男鹿日本海花火大会、各種スポーツ大会等のイベントに利用されている。今後は、指定管理者である男鹿市とともに、より一層の周知と利活用を図りたい。						

住民満足度等の状況 (事業終了後)	満足度を把握した対象 受益者 一般県民 (時期:平成20年 7月) 満足度把握の方法 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット その他の方法 (具体的に ) 満足度の状況 利用者及び一般県民へのアンケート結果から、およそ半数近くの人が整備以前と比べて船川港を親しみやすくなったと感じており、親しみづらくなったと回答したのはわずか1%であった。また今後当該緑地を利用したいと思うという回答は70%以上であり、住民満足度は高いことが分かる。
上位計画での位置付け	あきた21総合計画では、自然とふれあう多彩な活動の推進に位置づけられている。
関連プロジェクト等	特になし。
前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留又は中止 指摘事項
	特になし。
	指摘事項への対応 特になし。

## 2. 所管課の自己評価

観点	評価の内容(特記事項)	評価結果
有効性	住民満足度の状況 A B C アンケート結果からも、満足度は高い。	A
	事業の効果 A 達成率100%以上 B 達成率80%以上100%未満 C 達成率80%未満 平成19年秋田わか杉国体や男鹿日本花火大会等の各種イベント会場として利用されているほか、災害時の避難場所としても活用されており、事業の効果は高い。	B C
	事業の経済性の妥当性 A B C B / Cが1.7であり、その経済性は妥当である。	A
効率性	コスト縮減の状況 A 縮減率20%以上 B 縮減率20%未満 C 縮減なし -	B C
	総合評価 A (妥当性が高い) B (概ね妥当である) C (妥当性が低い) アンケート結果からも住民満足度は高く、また各種イベント等に船川港が利活用されており、事業は妥当である。	

## 3. 評価結果の同種事業への反映状況等(対応方針)

事業実施前の設計及び調査段階で現場の把握や、実施・詳細設計における適正な事業費の把握に努め、コスト縮減に関しても積極的な取り組みをし、効率的な事業執行を図る。
---

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。
--------------

## 総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	A
B (概ね妥当である)	「A」判定、「C」判定以外の場合	
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合	